令和3年度 「土砂災害防止に関する絵画･作文」作文中学生の部 優秀賞（事務次官賞）

「　自然災害に備える　」

秋田県　湯沢市立稲川中学校　３年　小野寺（おのでら）　泰斗（たいと）

土砂災害に気をつけよう―そう言われても、僕は土砂災害の恐ろしさについて意識する事がなかった。それと言うのも、自分の身の周りで土砂災害の被害に遭ったという事もなかったからである。だから、土砂災害は自分には全く関係ない「災害」と捉えていた。

しかし、そんな暢気な僕の意識が一気に変わったニュースに出くわした。それは今年の７月に熱海市で発生した大規模な土砂災害だ。

テレビのニュースでは、熱海市の災害発生時の様子が何度も放送された。また、テレビだけではなく、ネットでも被害の状況が公開された。僕はその映像に強い衝撃を受けた。

ニュースの映像では山から流れてきた土砂がものすごい勢いで流れていき、周囲の家や車、電柱など次々と呑み込んでいく様子が放送された。また、この土石流でたくさんの人が亡くなったこと、行方不明の方も大勢いること、建物等の被害総額も相当なものであることも伝えられ、被害の大きさに胸が痛んだ。

土砂災害とはこんなに恐ろしい物なのか―僕は自然の脅威に大きな恐怖を感じた。土石流は情け容赦なく人の命を、そして生活の基盤を全て呑み込んでいった。まるで津波のようだ―僕はそう思った。

１０年前、僕は東日本大震災で津波の恐怖を知った。しかし、心の中では、海沿いに住んでいない自分はそんな大きな自然災害に遭わないから大丈夫、そんなふうに思っていた。

しかし、海沿いでなくてもこうした恐ろしい災害が自分の周囲に潜んでいると思うと、ぞっとした。さらにテレビの解説員の話から、土石流とは自分とは全く関係ない物でないことも知り、さらに恐怖がつのった。

本当に自分の周辺でも土砂災害が起きるのだろうか―そんな疑問をもって、解説員が紹介したサイトを開いた。すると、そこには土砂災害警戒地区の一覧表があった。秋田県内でもこんなにあるのか―僕は自分の住んでいる周辺の住所を検索してみた。すると警戒地区としてたくさんの場所が指定されていた。僕は思わず自分の目を疑った。しかし、何度も見直してもその一覧表は、自分の住んでいる周辺の住所であった。この時、僕は土砂災害とは自分と無関係のものではないことをはっきりと知った。さらに衝撃的だったのは、土砂災害警戒情報が出ていないのに土砂災害が発生することがある、というニュースの解説員の話だった。こうした話から、僕たちは自然災害についてもっと勉強していく必要があると切実に思った。

そんな中、僕たちの学校で危険箇所の確認を行う活動があった。全校生徒が自分が住んでいる地区ごとにグループを編成し、危険な場所はないか話し合ったのだ。そして、その話し合いをもとに先生方とその場所の確認をしたり、先生方に写真を撮ってもらい、通学区の安全マップを作った。さらにその安全マップを小学校とすり合わせ、小中学生が共通で自分の住んでいる場所の危険箇所を確認する予定だ。

この活動は時間と手間暇がかかり、大変だった。しかし、やる価値はあったと思う。それと言うのも、僕のような暢気な構えでいては、いざと言う時に慌てるからだ。だから、危険箇所の確認や防災について時間を確保して学んでいく積極的な姿勢は必要だと僕は思う。そしてそれは小さい頃から必要だとも思う。

しかし、それだけでは足りないと思う。なぜなら、災害についての知識をもっていない災害時の行動が違ってくるからだ。

たとえば、土砂災害についてみんなはどのくらいの知識があるだろうか。僕は熱海市の土砂災害から土石流の前触れについて知る事ができた。こうした前兆現象の知識があれば、災害を未然に防ぐ事や、災害被害を小さく抑える事もできるかもしれない。

また、それと同時に、情報をきちんと把握して、自分で判断する力も必要だとも思った。確かに、災害前に自治体等が避難するよう呼びかけをしてくれると思うが、住んでいる所、家族の構成、健

康状態によって避難するタイミングはそれぞれ異なってくる。だから、自分の命は自分で守る、という気持ちを各自がしっかりもつことが大切だと僕は思う。

　自然環境の変化で今は自然災害も増加している。また、被害の規模も拡大している。そうした中、僕たち一人一人に求められているのは、自然災害に対する心構えと判断力と行動力だといえるのではないだろうか。命を守る行動とは自然災害が発生する前から始まっているのだ。